FAXニュース
ŌMIYA
JR東労組大宮地本
2020年3月6日
No. 134

大地申
第１２号

「2020年3月ダイヤ改正等について」に関する申し入れ団体交渉開催！【小山車両センター分会】

車セ関係その１

１．予備車が減となる理由を明らかにすること。また、その影響について大宮支社の考え方を明らかにすること。

◆会社回答：予備車については関係箇所と調整した上で運用を確保していく考えである。

組合：予備車減の理由と経過は？

会社：内訳は、予備車が３つの内、検修予備が２つ、機器更新予備が１つ。２０１９年度に増備車のぞきＥ２３１系の機器更新が終了した。２０２０年度より国府津の機器更新が始まることにより、国府津に機器更新予備車を配備することになる。

組合：職場では機器更新予備という認識が無い。そういった認識があれば、国府津に持って行くとなれば想定できた。改めて関係者に周知してほしい。また、予備車が減となる影響は？

会社：１編成減になるが定期検査（入場や車輪削正）は、一定程度の変化は出ると想定している。

組合：その変化が心配だ。全掃にもひびくと想定している。入場もあるが、計画段階で３本入場計画あるが？

会社：２０２０年度上期になるが、TK・OM に３本入場する。予備が２本で足りないが、まず横浜と大宮でどうしていくか調整している。国府津からの１編成の借用を調整している。

組合：転削は？

会社：２本ないと予備がないので転削できないことは認識している。車セとも調整している。

予備車両を確保するため、国府津との運用の持ち替えなど検討していることを確認！

２．スタンバイ予備車の位置づけを明確にし、位置付けが変更になる場合は丁寧な説明を行うこと。

◆会社回答：スタンバイ予備は、今後も異常時等に速やかな対応を可能とするために運用していく考えである。

スタンバイ予備の位置づけは今後も変わらないことを確認！

３．予備車減に伴い、入場中には予備車の無い状況になることから、具体的な対策を行うこと。

①予備車減により修繕作業・改修工事と JETS における全掃・サビ取りなどの役取りが競合するため、支社が主体的にグループ会社との調整を行うこと。

②予備車減による修繕可能時間の減少を踏まえ、現品無しの再申告の課題を克服するため、配トラの数を増やすか修繕品配備の数を増やすこと。

③１０B 転削線を早期に新設すること。

◆会社回答：関係箇所と必要な調整を行い、対応していく考えである。

組合：本体は故障車があれば優先的に修繕したい。しかし JETS も契約行為でやらなければならない。結局。構内本部が双方の言い分の板挟みになっている。支社の仕切りが必要だ。

会社：契約は１年契約でそのなかでの予定数をこなさなければならないということもる。支社車両課で JETS 本社とも協議していきたい。提起は受け止める。現状の把握をして板挟みの解消は図っていきたい。

運輸サービスと調整を図っていくことを確認！

組合：現品無申告、再申告件名は１８０件ほど記録ある。その瞬間直せるものが直せなかった。原因は修繕品が無い事。TK・OM に部品取りに行くこともあるが、配トラ月３回。

会社：実際に TK の計画、配トラを出す経費もあるが、３回では少ないといことであれば支社間でもその意見は伝えていきたい。

配トラの回数については状況を見ながら調整することを確認！

組合：転削機の老取計画が立ち消えている。調査までやったが、話が無くなった。どうなっているのか？

会社：立ち消えではない。額が非常に大きいため、難航している。苦労も承知している。

組合：何が障害となっているのか？

会社：まずは予算を確保しなければならない。様々な方法を駆使して進めている。

転削機の老取は最重要件名であることを確認！

車セ関係その２に続く